



浅野みえ子

無所属です

所沢市議：市政レポート NO.34 2013年 8月 吉日

こんにちは！ 遅くなりましたが 6月定例議会の報告をします。
第2市民ギャラリー敷地の有効活用について、藤本市長に質問しました。
これに対して、藤本市長は「有効活用に向けて、スピード感を持って前向きに検討します」と、答弁されました。地域住民のみな様の永年の願いが実現する可能性が、藤本市長の答弁から目の前に見えて来ました。

動け、所沢！ です



浅野質問

北秋津地域の住民にとって、吾妻公民館は遠すぎて利用できません。又、北秋津町内会の集会所は古く耐震性に問題があり、避難所としても適しません。一方、所沢駅東口前にある市有地の第2市民ギャラリー敷地は、35年間、プレハブ建物のままで展示会以外に利用できなく、公有地なのに有効活用が出来ていません。平成19年には北秋津町内会も「第2市民ギャラリーの有効活用についての要望書」を、市に出しています。藤本市長のご見解を伺いたい。



藤本市長答弁

第2市民ギャラリー敷地の有効活用について検討を進めているところです。厳しい財政状況ですので、機を見て敏にスピード感を持って「動け所沢！」で、前向きに検討していきます。具体的な市の取り組みは経営企画部長が答弁します。

経営企画部長の具体的な答弁内容を以下に記します

第2市民ギャラリーは、展示会や選挙の期日前投票所として活用していますが、これは将来の活用方法が決まるまでの暫定使用です。現在、所管する財務部から、庁内各部に、当該用地使用について、活用希望を聞いています。各部の要望をまとめて精査すると共に、今後「市有地取得検討委員会」(=市が所有する市有地の有効活用を検討する委員会：担当は財務部と経営企画部です)にかけて、有効利用を総合的に判断して行きます。

「市有地検討委員会では有効利用について、前向きに検討していく」との藤本市長の方針は、これまでの市長の答弁より、一歩進んだものです。
この答弁を聞いた地元では期待感が膨らんでいます。

支出を抑えて、歳入を増やす議案を藤本市長が提出
 「所沢市旧浄化センター跡地」を売却して、歳入を増やします。
 その為の手続き予算が今議会で成立しました。紹介します。



旧浄化センターの門
 ・（東所沢和田にあるベルクの向え側）



センター内の旧浄化槽です。解体します

「浄化センター」は、所沢市の下水処理場でした。浄化槽で浄化して柳瀬川に流していました。その浄化センターに集められていた市内全ての下水を平成24年度に、埼玉県荒川領域下水道に編入し、荒川領域下水道センターで浄化するようになった為に廃止されました。

この跡地にある建物や浄化槽等を解体し、斜めになっている土地を平らな更地にする必要があります。解体、更地整備費用は、10億円以上です。このままにしても年間維持費が1,000万円はかかります。そこで、市は「この跡地を今のままの状態売却する事にしました」

市はこの土地は「準工業地」で、約1万坪なので売却先は「産業系の企業」を主にしたい。そこで市民の雇用を増やしたい。（＝障害者雇用、太陽光施設設置もする企業へ）又、柳瀬川側隣接は住宅街なので、分割して住居を作る企業も考えている。と説明。売却先企業が、解体・整備を行うのが条件。実現すると、それらの企業が固定資産税を収めるので市の歳入が増える。固定資産税は年間約「2,500万円」入るとの事。

浄化センター建設時に国の補助金があったので廃止時に「5億円の補助金返還」を求められましたが、市長・担当職員が国と何回も交渉し返還金は「320万9千円」になりました

「西武車両工場跡地の鉛の除去」を市が指導する
 ～所沢駅西口まちづくり再開発へ繋がる～

7月25日、西武車両跡地がある東住吉町内会住民の25名の方が、西武車両跡地内に点在する（10数か所）鉛汚染の箇所を視察しました。市の街づくり計画部と環境クリーン部の担当課長、職員の方7人と、西武ホールディングス、西武鉄道の担当者の方が10数名参加し説明をしました。西武から「住環境に多大なる影響を与えるので、市の指導を受けて鉛のある土壌を除去する」と説明がありました。まずは建屋がない場所から、除去するとの事です。参加した住民の方々は安心していました

みえ子のおしゃべり
 私は、斉藤市長、当麻市長に「第2市民ギャラリー敷地の有効活用として、公共施設設置を入れる事を条件として、民間に売却するよ」と質問しましたが実現しませんでした。今回、藤本市長には初めてしました。市長答弁から実現の可能性が見えて来ました。支出を抑え収入を増やす市長の方針です